

ねじりはちまき

4月 卯月 清明 穀雨の月となりました。
4月4日、清明です。6日、春の全国交通安全運動（4月16日迄）。
8日、花祭り「灌仏会」です。9日、旧暦の3月節句です。
20日、穀雨。29日、昭和の日です。

「火の用心」をもう一度考えてみたいと思います。
福島県の調べによると、3月10日迄に火事で亡くなった人は、昨年同期より6人も上回る13人になっているということです。
お年寄りや子ども、障害のある人たち、災害弱者といわれる人たちを、火災から守る対策も考えておかなければならないと思います。

いよいよ、春ですね。
桜の花の舞散る、春たけなわの季節です。
今年は桜の開花は早いといわれていますが、何年か前に桜の花に雪が積もったことがありました。桜の花に積もった雪の方が美しい、などといったことがありましたが、この様なことがなければと思ったりしています。

まだ寒いです。どうか、ご自愛の程を…

幸田 常一



お世話になっております。
大玉村のカフェ建設工場の現場は、お陰様で無事完成しお引渡しを
させていただきました。
また、先月より本宮市の現場で新築工事が始まりました。

「スキナコト」

「暑さ寒さも彼岸まで」とは良く言ったもの。厳しい寒さに耐えてきた私、春の彼岸過ぎて、ようやく身近に春を感じる事が出来るようになって参りました。

幸田建設様の社報「ねじりはちまき」をご愛読の皆様も、元気でお過ごしのことと拝察いたし、お慶びを申し上げます。

ある月刊誌4月号に、ある作家が「私の住みたい社会」とのタイトルで、「どんな社会に住みたいか、と問われたら私は迷わず、“お金が無くとも楽しめる社会”と答えます。」とありました。

現在、ヨーロッパや中東でのテロ(宣戦布告の無い戦争というべきか)、また我が国の周辺でも、物騒な動きが頻発しております。こんな情勢の中で「お金が無くとも楽しめる社会」とは、誠に有難い社会といわなければならないと思います。欧米諸国も中近東諸国も、今や戦国時代です。無差別の殺戮が平然と行われており、当面この流れを止めることは出来ないのでは、と不安が先にたちます。何とか打開策は無いものでしょうか。

私共の家庭もお金はありませんが、代わりに時間と健康があります。今年も厳しい冬をどうにか乗り切り、楽しい春を迎えることが出来ました。

私にとっては、これから秋まで、楽しく忙しい季節となります。先ず、家庭菜園で美味しい野菜を栽培すること。春野菜の種まきはこれからですが、過日、妻と共同作業で馬鈴薯(種薯10kg)の植付けを済ませました(私の実家では昔から馬鈴薯のことを「カンプラ」といっておりました。中通り地方では馬鈴薯というのでしょうか。)。昨秋に植え付けた玉葱、ラッキョウ、キャベツ、ニンニク等の野菜も順調に生育、豊作が期待出来そうです。夏は炎天となりますが、汗を流しながらの秋に収穫する野菜(白菜、大根、人参、ブロッコリー等)の手入れを行います。

また春の山菜、コゴミ、シドキ、タラの芽、ワラビ等、春の山菜採りも私の楽しみの一つ。単独での山菜採りは、事故のことを考えて入山は厳禁。しかし、友達と一緒にならOK。幸い若い(70歳代)方が無類の山好き。勿論、山菜採りも大好き。この方の運転技術は抜群。この方と一緒になら安心とOKが出ます。秋は、近くの山でのキノコ狩りも楽しみの一つです。

さらにまた、K市に在る山岳愛好会に入れて頂き、夏の山々に日帰り登山をしております。今年のメイン山行は、二泊三日の日程で立山連峰に登る予定です

この様にして、「お金が無くとも楽しい社会に住んでいる。」ことを実感している次第です。これも、健康に恵まれ、素晴らしい方々のお陰と感謝の念を深くしているこの頃です。

今回は海外に渡った日本人にスポットを当ててみたい。時代は、鎖国政策がとられるまでの江戸時代初期以前ということにする。そして、渡った先から朝鮮半島は除く。余りにも近く、古代から密接な交流関係にあるからである。中国から以遠を対象にするが、その場合「日本人初」と呼ばれる内容を持つものを3ケース取りあげてみたい。

先ず中国である。遣隋使、遣唐使というのを歴史で習ったが、遣隋使は推古朝が隋に朝貢するために派遣した使節で、600年から618年の間に5回派遣している。遣唐使は唐に派遣した使節で、第一回が630年（舒明天皇の時）、最後の派遣が835年でその後派遣されず、菅原道真が宇多天皇に建議して894年に廃止が決定した。その間の派遣回数20回の説を始めまちまちで定説がない。その中には派遣されても入唐できなかったものもある。ここで取り上げたい人物は、阿倍仲麻呂である。彼は、奈良時代に入って間もない第9次遣唐使（717年）に同行し、留学生として派遣された。そして唐の都、長安で学んだのである。彼が詠んだ歌に「天の原 ふりさけみれば 春日なる 三笠の山に いでし月かも」がある。これは百人一首に選歌されているが、日本を懐かしみ、唐の地で詠ったとされている。彼は20年後の遣唐使とともに日本に戻ることはなかったし、在唐35年を迎えた時、また帰国のチャンスが訪れる（753年）が、帰国船（第12次遣唐使）が嵐に会い安南（ベトナム）に漂着し、そこから長安に戻るのだ。仲麻呂は、留学生としての学業を終えると、日本人として初めて唐の官僚となり、「校書」のポストから出世コースを歩むことになる。やがて31歳で「佐補闕（さほけつ）」の地位に昇り、絶頂期にあった玄宗皇帝の側近として活躍する。彼は漢詩の才能にも恵まれ、有名な漢詩人の李白や王維らとの親交があったことも出世に幸いしたようだ。そして53歳の時文人官僚のトップの地位である「秘書監」に就く。仲麻呂は帰国を期待されながら、帰国しなかったのは彼自身の意思なのか、それとも玄宗皇帝に引き止められたのか、それは判然とはしない。それにしても、日本人ながら若くして皇帝の側近の地位まで昇りつめたのは、彼は余程抜きん出た才能があったということだろうし、彼にとっても自分の才能を生かすうえで、先進地の唐を望ましい地であると思っていたことは間違いないだろう。仲麻呂はついに帰国を決意しながらも、それが果たせず、再び長安の地を踏む（755年）。それから安禄山の反乱などで揺れる唐の官途に就く。その中で安南の節度使として6年間安南の総督を務めたりした。最後に「従二品」の官位を賜って、770年73歳でその生涯を閉じたのである。余談だが、玄宗皇帝は絶世の美女「楊貴妃」を溺愛したことでよく知られている。

次は天正遣欧少年使節を取り上げる。天正というから織田信長・豊臣秀吉の安土桃山時代であり、少年使節が長崎港を出発したのは、天正10年（1582年）2月であったが、この年の6月2日に本能寺の変が起こっている。この頃はキリスト教の布教が進み、キリシタンが15万人を数えたといわれ、いわゆるキリシタン大名も誕生していた。少年使節の派遣はイエズス会宣教師・ヴァリニャーノの発案とされ、九州のキリシタン大名、大友宗麟（豊後）・大村純忠（長崎）・有馬晴信（肥前）の名代として4人の少年（13歳～14歳・名は省略）をローマ教皇そしてポルトガル・スペイン国王のもとに派遣したのだ。その目的はイエズス会の日本での布教の実績アピールと今後の布教支援の獲得であったという。それに加え、少年たちの見聞を広めさせ、布教への使命感を高揚させることもあったろう。当時のローマ・カトリックはプロテスタントの攻勢を受け、新たな布教の地を求めていたという。さて、少年使節は1582年2月に出発し、8年の歳月をかけて1590年7月に無事帰国する。少年たちも二十歳を過ぎている。初めてヨーロッパに渡った日本人として、大変な長旅ではあった。この少年使節によってヨーロッパの人々に日本の存在が知られるようになったわけである。それだけ使節はヨーロッパの各地を訪問し、滞在し

たのである。先ず、1584年8月ポルトガルのリスボンに到着。そして同年11月にはスペインのマドリードへ。1585年3月にイタリアのピサに入り、そこを經由してやがてローマに到着し、滞在する。ローマは同年6月に発って、ヴェネツィアやミラノも訪れている。帰路に就くのは1586年4月、リスボンからである。使節のヨーロッパ滞在は2年近くであった。その間、各地で歓迎を受け、ポルトガル・スペインの国王やローマ教皇とも謁見し、使節としての役割を果たした。それにしても、滞在よりも往路・帰路の方がはるかに時間かかる(約6年)時代だったのだ。当時は、ポルトガル・スペインを主役とする大航海時代で、南アフリカの喜望峰、インドのゴア、マレーシアのマラッカなどを經由する航路が開発されていた。それにしても使節が乗船した船舶はどの国のものだったのだろうか。記録をみつけることができなかった。余談だが、少年使節が持ち帰ったグーテンベルク印刷機により、日本語の書物の活版印刷が日本で初めて行われたのである。

最後に東南アジアに目を向けよう。山田長政のことである。彼は1612年に朱印船で長崎から台湾を経てシャム(今のタイ)に渡った。当時は徳川幕府が開設されて間もなくであり、豊臣秀吉から徳川家光の時まで間、海外貿易を許可する「朱印状」が発行されて、鎖国政策が取られるまで東南アジアとの朱印船貿易が盛んであった。シャムに渡った山田長政は一部貿易に関わりながら、シャムの傭兵即ち日本人義勇兵に加わった。シャムに渡った日本人は皆そうだったようだ。当時シャムでは海賊や盗賊を追い払うため傭兵制度を設けていた。やがて日本人義勇兵は勢力を増し、国王に重用されるようになる。山田長政はその中で頭角を現し、傭兵を率いる隊長として、さらには日本人町頭領としアユタヤ朝に仕え、ソントム王の信任を得ていく。当時のアユタヤは中継貿易港として栄えていたし、日本との交易も盛んであった。日本側が貿易船として使用していた朱印船はシャム製のジャンク船だったという。ソントム王の信任を得た結果、アユタヤ法典に日本人傭兵の政治的位置が明確に示されるようになった。併せて官位制度においても傭兵隊長は第3位の位階に叙せられることになった。そのように榮譽を極めることになるのだが、1628年にソントム王が死去する。王のもとに高官となっていた彼は政争に巻き込まれ、王の死去2年後、1630年暗殺され、この世を去ってしまう。傭兵の身から外国王朝の高官になったのは日本人初であろう。徳川幕府の帰朝禁止令が出されたのは、その6年後の1636年であった。その3年後にポルトガル船の入港が禁止され、鎖国となったのである。余談だが、アユタヤに日本人町があった頃、東南アジアにはベトナムのホイアン、マレー半島のバタニ王国、カンボジアのプノンペン、フィリピンのマニラにも日本人町があった。アユタヤが一番大きく、最盛期には1,000人~1,500人いたということである。このことは、そのころの日本人にも海外に目を向けている人が結構多かったということをも物語っている。山田長政の外にも取り上げてもいい人物がいたかも知れない。

< 御 礼 >

先月のタカラスターダートの展示会では、お忙しい中ご来場をいただき、誠にありがとうございました。

尚、ショールームでは現在、新製品の発表展示会を開催しておりますので、ぜひお出かけ下さい。

.....

今月の旬♡食材



「アスパラガス」

おいしいですね、アスパラガス。^-^

肉巻きやベーコン巻き、天ぷら、茹でてそのまま食べたり、サラダに加えればとても鮮やかです。

アスパラガスには、カロテンやビタミンB群、疲労回復に役立つアスパラギン酸が含まれています。

何かと忙しいこの時期。アスパラガスを食べて元気出して下さい。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

こく う 穀 雨

穀雨は20日前後です。

「雨が降って百穀を潤す」という意味からきている言葉で、このあたりで降る雨が、すべての穀物をうるおし、育てるといわれています。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

菜の花



気付けば畑や土手に菜の花が咲いて、とてもきれいです。

冬が終わって、本当に春が来たんだなあと感じます。

辺り一面、黄色に染める菜の花は、春の風物詩になっていますね。

花言葉は「明るさ」「快活」。つぼみの緑と花の黄色が、人々の心を明るくするその姿に由来しているといわれています。

<会社近況>

4月に入りました。暖かくなりましたね。(*^_^*)
私の周りには、咳やくしゃみや鼻をかんでいる人がたくさんいます。
風邪なのか、花粉症なのか…?
暖かい日や寒い日があって、体調を崩しやすい時期なのかも知れませんね。
お体、どうか大切に。

お世話になっていた現場が完成して、無事お引渡しさせていただきました。
本当にたくさんの方々にお世話になりました。ありがとうございました。

先日から本宮市の現場で、事務所の建設工事を開始させていただいております。お盆の頃には、完成の予定です。

事務所内では工事の打合せをしたり、図面や書類の作成などしています。
また、昨年から企画住宅のちらし作成を少しずつ進めていて、皆が様々な案を出し合い、話し合いを重ねています。
完成するのが楽しみです。もうすぐご案内できるかと思えます。

☆休日のお知らせ☆

4 / 29 (金)	「昭和の日」	お休みさせていただきます。
4 / 30 (土)	平常通り営業です。	
5 / 2 (月)		お休みさせていただきます。
5 / 3 (火)	「憲法記念日」	〃
5 / 4 (水)	「みどりの日」	〃
5 / 5 (木)	「こどもの日」	〃
5 / 6 (金)、7 (土)	平常通り営業です。	

※ ご迷惑をおかけいたします。

.....

平成28年 4月5日発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者>幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
<電話>
0243-44-3816

<後記>

近所の畑と土手一面に菜の花が咲いていて、とてもきれいです。
20年前、わが子の手をひいて土手を散歩したことが懐かしく思い出されます。
子どもも親元を離れ、散歩の相手が犬になりましたが、いつまでも変わらずに咲いていてくれることに感謝しています。

(事務員k)